通ううちに会話が生まれ友だちになれる場所に

今泉（いまいずみ） 冨代（ひさよ）

よりあい処 華

昭和23年（1948）、田村市生まれ。
18歳で都路村役場（現・田村市都路町）職員に。退職後2009年まで
特別養護老人ホーム施設長を務め、引退後、趣味で手芸を始める。震災後は
村民に手芸を教える活動などを経て2014年、市内都路に「よりあい処 華」を開設。

震災時は夫も息子も役所の職員でしたので、私と嫁と孫2人で
転々と避難しました。怖くて眠れない夜もいっぱいあって、
泣いて過ごしていた気がします。5回目の移転で一戸建てを借りて、
ようやく家族で落ち着くことができました。落ち着くと、習った手芸を活かして
何かできないかと考え、仮設住宅で手芸を教える活動をずいぶんやりましたね。
「何したら良いか分からない」というおばあちゃんの言葉が忘れられなくて、
2年間、毎月2回欠かさず通いました。都路（みやこじ）に帰れることになり、寄り合う場所が
必要だなと思って始めたのが「よりあい処 華」です。「認知症予防になるから
また来て」って声をかけて、通ううちに会話が生まれて友だちになる。
子どもたちがおばあちゃんたちと手芸をしたり、ボランティアの社会人や
学生さんとの交流もたくさんある。中学生がボランティアさんに
「都路は私たちが守るので安心してください」って挨拶してくれたことを思い出すと
今も胸いっぱいになります。3年くらいのつもりがもう6年。
やめるのはもったいないって言われ、私たちもそう思うようになった。
ここが無かったら皆どうしてたかなって思うこともあるし、
できる限りは続けていきたいですね。

「よりあい処 華」で、つるしびな作りを学ぶ子どもたち。
地域の人たちが「先生」となり、交流を深めている